

5章1節13 問いづくり「新聞を読み質問力を磨く」

授業者：大村昌代 半期2単位

本質的な問い	問いづくりを通してあなたが明らかにしたいことはどのようなことだろうか。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①新聞を読み社会ので出来事に疑問を持つ。 ②自分以外の誰かの立場に立って、新聞を読み、問いをできるだけたくさん作る。 ③個人ワーク、グループワークで作った質問（授業外）を他者にわかりやすく伝える（対面授業時、文と口頭発表）。 		
論点 (深めるために)	自分以外の誰かだったら、何が疑問になるだろうか。それはなぜだろうか。		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている、わかっていると思っていたことばやことがらが、実は具体的に説明できない知識だったという気づきが生まれるように、語の取り扱いについて何度も問い、促した。 ・表面的な質問から深い質問につながるための模索の状態を壊さないようにした（こうやればよいというような助言はしない）。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	<ul style="list-style-type: none"> ①この記事でわからないワードはどれか。 ②自分以外の誰かの気になるキーワードはどれか。 	<ul style="list-style-type: none"> ③自分以外の誰かはこの記事を読んでどんな疑問を持つだろうか。 ④この質問で何が明らかになるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤問いが伝わるように表現するには、何をしたらいいだろうか。
洞察を促す問い	<ul style="list-style-type: none"> ⑥あなたはことばやことがらを知っているか、それは本当か。 ⑦これまでの社会の時間、空間、文化、文脈のなかで、何がなさ 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧記事に出ていない背景や状況を調べ、解釈しているだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨自分ならばどのような文章（記事）を書かか。
本質的な問い		<ul style="list-style-type: none"> ⑩自分以外の誰かの立場であったら、どうしたいだろうか。 ⑪自分以外の誰かはこれからどう生きていだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫自分以外の人の立場を踏まえ、どうしたら私たちはこれから幸せになれるだろうか。
学生の変容（ICEルーブリック）			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	ことばやことばについて注意しながら読む。	既知のことばやことばであっても、別の文脈で読み直し、新たな解釈を探る。	深めた知識や情報に新たな解釈と価値を持って、文や口頭で表現する。
教科・科目に特有の見方・考え方	自分以外の誰かの立場で想像しながら読む。	直感や想像も生かしながら、理由や根拠を持って、自分以外の誰かの立場でことばやことばを解釈する。	自分だけでなく、自分以外の誰かがよりよく生きるためにどうしたらよいか提案したり、問題点を表現したりする。
汎用的な能力	よくわからないことばやことがらであっても向き合い、疑問を作ってそこから理解しようとする。	自分の身近にいない人の立場を理解するために、国、時代、言語、文化の異なる人の文脈で具体的な問いを持つ。	様々な視点を使って社会の出来事に疑問を持ち、他者の立場も考慮して、疑問や主張をわかりやすく表現する。

※実施した授業にはICEモデルを適用していない。ICEで授業を振り返るとどうなるかという試みでここに記述した。